

単純ヘルペスウイルス1型による新規宿主免疫回避機構の解明

著者	小? 直人
学位授与年月日	2014-03-24
URL	http://doi.org/10.15083/00007126

論文審査の結果の要旨

氏名 小柳 直人

本論文は、単純ヘルペスウイルス 1 型 (HSV-1) がコードするプロテインキナーゼ (PK) である UL13 および Us3 の生体内における機能解明を目的とし、得られた結果について示されている。

HSV-1 UL13 に関しては、UL13 の PK 活性の *in vivo* における生物学的意義の解明を試みるために、UL13 の PK 活性を消失した株及びその復帰株を作製し、脳内接種モデル及び角膜接種モデルという接種ルートの異なる 2 種類のマウス HSV 感染モデルに供し、UL13 の PK 活性が生体内においてウイルス増殖や病原性発現にどのような影響を与えるかについて解析が行われている。

HSV-1 Us3 は脳内接種モデル及び角膜接種モデルのいずれにおいても病原性発現に重要であることが明らかになっている。しかし、角膜接種モデルにおいて Us3 が神経侵襲性に重要であるかは不明であった。本研究では、Us3 欠損株及びその復帰株を用い、Us3 が角膜接種モデルにおいて神経侵襲性に寄与するか解析が行われている。

なお、本論文の Us3 に関する研究は、今井孝彦博士、有井潤博士、加藤哲久博士、川口寧博士との共同研究であるが、論文提出者が主体となって分析及び検証を行ったもので、論文提出者の寄与が十分であると判断する。

したがって、博士 (生命科学) の学位を授与できると認める。

以上 557 字